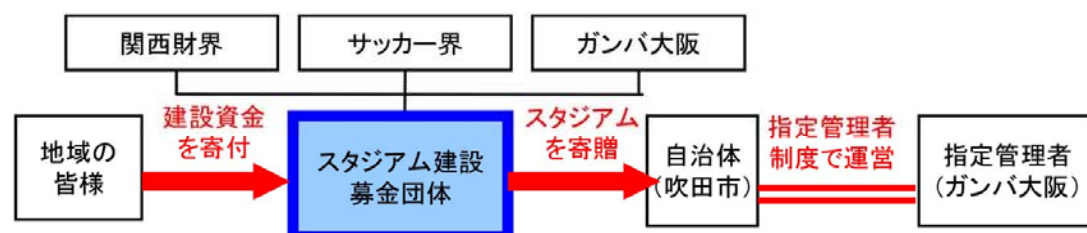


# サッカースタジアム概要

2016年3月  
株式会社ガンバ大阪(指定管理)

## ①スタジアム建設手法

「国等に対する寄付金の確認」を利用し、スタジアム建設募金団体が寄付金にて建設。完成後は吹田市へ寄贈。管理運営は指定管理者制度を利用してガンバ大阪が実施予定。



## ②建設資金

皆様の寄付金と日本スポーツ振興センター、国土交通省、環境省の助成金を活用。

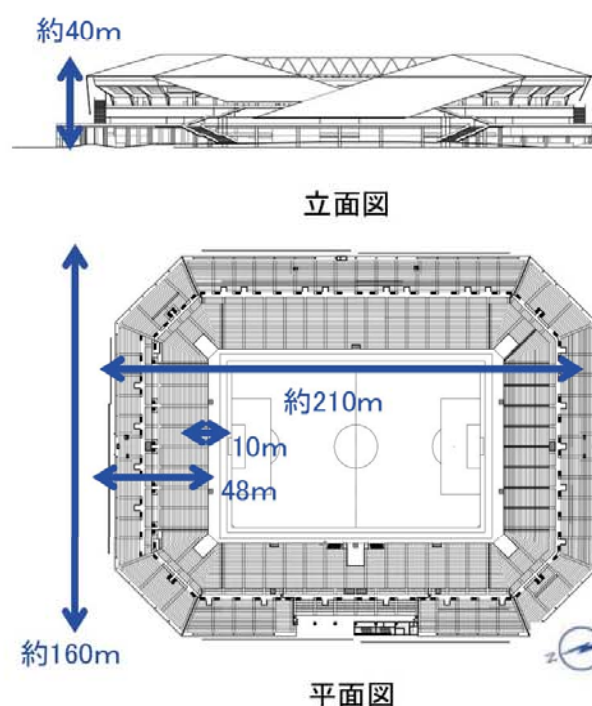
対象	金額	協力者数
法人募金	99億5019万円	721社
個人募金	6億2215万円	34,627名
助成金	35億1333万円	JSC・国交省・環境省
合計	140億8567万円	—

## ③建設概要



- 建築面積: 24,713㎡
- 延床面積: 66,355㎡
- 高さ: 40.33m
- 地上6階建
- 収容人数: 40,000人
- 主な仕上

屋根・覆い壁: ガルバリウム鋼板折板葺  
外装: 押出成形セメント板  
開口部: アルミ製建具、スチール製建具  
観客席: プレキャストコンクリート段床



## ④スタジアムの特徴

### 臨場感溢れるスタジアム

- ・ピッチに近い臨場感溢れるスタンド
- ・全席屋根がカバーした快適な観戦環境
- ・回遊可能なコンコースで試合前後も楽しむ

### ヨーロッパスタイルのVIPフロア

- ・高級感あふれるラウンジを設置
- ・2000席のVIPエリアを完備
- ・ヨーロッパのような多様な観戦が可能

### 環境配慮

- ・500kWの太陽光発電
- ・雨水の再利用
- ・LED照明機器をナイター照明に採用

### 最先端のシステム導入

- ・基幹ネットワーク構築による顧客管理および販売管理
- ・セキュリティ、音響、映像、放送設備での最先端システムの導入
- ・将来を見据えた拡張可能なシステム構築

### 地域防災拠点

- ・自然エネルギーを活用した防災拠点整備
- ・災害対策本部のバックアップ機能
- ・災害用備蓄倉庫の設置と救援物資配送センターの役割
- ・避難所として利用  
(短期滞在: 800人 / 長期滞在: 300人)

## ⑤スタジアム完成後の活用

### スポーツを中心としたエンターテインメント拠点

- ・Jリーグ、国際大会等の大規模サッカー興行開催
- ・すべてのお客様が楽しめる最高の空間づくり
- ・安全で快適な空間づくり
- ・良質な天然芝の育成等プレイヤーの快適な競技環境づくり

### 健康増進拠点

- ・周辺スポーツ施設と連携した健康増進拠点
- ・ガンバ大阪のノウハウと周辺大学・医療機関と連携したスポーツプログラムの提供

### 地域交流拠点

- ・試合開催日以外もにぎわう施設をめざす
- ・国際大会等の開催により国内外への発信
- ・環境教育の発信の場としての活用



# スタジアム環境取り組み

2016年3月  
株式会社ガンバ大阪(指定管理)

## 様々な環境取り組みを評価され、スタジアムでは日本初！CASBEE Sランク達成

### LED投光器／照明器具／照明制御／誘導灯

#### 日本初! サッカー専用スタジアム全面LED投光器採用

Jリーグ開催時に必要な照度(1500ルクス)を確保しながら、HID方式に比べ約30%の省エネを実現。

- LED投光器 (マルチハロゲン灯Sタイプ1500形相当)
- 中角タイプ: 236台
- 広角タイプ: 132台
- 拡散タイプ: 16台 計384台設置



### 太陽光発電〈屋根上に太陽光パネル設置 約500kW〉

屋根3面へ多結晶太陽光発電パネルを設置。CO<sub>2</sub>削減量は年間約241,960kgになる。一般の方にも環境意識を高めていただけるよう、グッズショップ内にて発電状況を案内中。



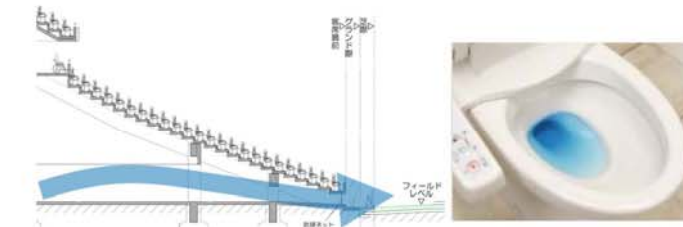
### LED外灯の設置

LED外灯の設置と風力および太陽光発電の外灯を設置し、省エネ機器で夜間の公園内の安全を確保。(LED外灯19本、風力発電外灯1本) その他、スタジアム内の照明、誘導灯などにもLED機器を多く採用し、省エネに努めている。



### 自然エネルギーの活用

芝生への自然通風の確保と芝生への散水およびトイレへの洗浄水への雨水利用。これにより年間5500tの節水を実現。



### 外部への音漏れの配慮

#### 指向性スピーカーの設置

スタンドの音響設備は指向性をもたせ、場外への影響を最小限としている



#### 応援ルールの徹底

Jリーグ開催時には、ホイッスル、拡声器、サイレンなどの持ち込みは禁止するとともに、21時以降の鳴り物の使用も禁止



花火、爆竹、発煙筒、スモークなど可燃物の持ち込み禁止

### ゴミの分別回収

可燃、不燃だけでなくペットボトルなどリサイクル可能なゴミを分別して回収



### 防災倉庫の設置

吹田市の備蓄品が納品済み。災害時には物資の配送センターの役割を担う予定。



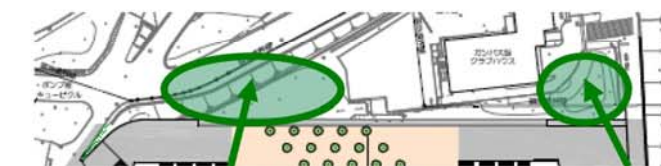
### 透水・保水性インターロッキング設置

吹田市のスラグを利用したインターロッキングを利用。(約7800㎡設置)



### 緑地の保全

既存の緑地をできるだけ保全し、新植部は周辺と調和する樹種を選定



### 中央監視設備

防災センターにおいて館内設備を一括管理。これによって、異常の早期発見と迅速な対応が可能。



### 一括受電

EXPOCITYと連携して、電力の一括受電を実現。(公共施設と民間施設での公道を挟んだ実施は日本初)災害時の電力融通も実現可能とし、スタジアムのBCP対策としても期待される。

